

【目次】

<u>1．図書館網の現状</u>	1
（１）現状	
（２）利用状況	
ア．利用者数	
イ．貸出冊数	
（３）他都市の図書館配置状況	
<u>2．現状の図書館網の評価と課題</u>	3
（１）市民意識	
ア．読書実態	
イ．図書館活用の実態	
ウ．利用図書館の状況	
エ．利用図書館の選択理由	
オ．図書館に行く理由	
カ．本を読まない、図書館に行かない理由	
キ．配置に対する満足度	
（２）図書館網（図書館の配置）に対する評価	
<u>3．図書館配置のあり方に対する考え方</u>	8
（１）基本的な考え方	
（２）地区別の配置の考え方	
ア．既存の地区図書館及び分館の配置	
（ア）地区図書館	
（イ）分館	
イ．新たな図書館整備等	
（ア）八幡西区	
（イ）小倉南区	

1. 図書館網の現状

(1) 現状

本市では、より効率的、効果的な図書館サービスの提供と図書館運営を図るため、中央図書館をトップに、その下に地区図書館（4館）、さらに地域に分館（11館）を配置するとともに、それぞれが役割分担しながら、図書館網を形成してきた。

さらに、近隣の市町村との広域利用や大学図書館の活用を推進することを通して、サービスの充実を図ってきた。

区分	役割	図書館数	1館あたり	
			規模	蔵書数
中央図書館	図書館網の中核として、貸出やレファレンスのサービスを提供するとともに、市内の地区図書館、分館を統括する。あわせて、ボランティアの育成、派遣を行う。全市の統括図書館。	1	4500㎡	46万冊
地区図書館	区民を中心に貸出、予約、読書案内、簡易なレファレンスなどのサービスに加え、各種講演会、講座などを実施する。あわせて各区内等の所管分館との調整。	4	1500㎡	17万冊
分館	住民の身近にあって、貸出・予約などのサービスに加え、親子が気軽に立ち寄れる環境を整えるとともに、読み聞かせ、映画会を実施するなど地域と密着した取り組みを実施。	11	400㎡	4万冊

(2) 利用状況

ア. 利用者数

ここ10年間の利用者数の推移をみると、「そねっと(10年8月)」、「若松図書館(12年4月)」の新規開館もあって、12年度以降は、60万人台を維持してきたが、16、17年度の中央図書館大規模改修による閉館の影響もあって減少したものの、18年度以降は増加に転じ、19年度では、67万人とここ10年間で最高の利用者数となっている。

一方、図書館別では、新規開業した「若松図書館」や「そねっと」での増加が著しく、それぞれ対10年度比で67.6%増、40.6%増となっている。また、八幡南分館も、28.6%増となっている。一方、折尾分館は、水巻町図書館（12年9月開業）の利用もあってか、ここ10年間で約30%減少している。（図書館関連資料P6参照）

イ．貸出冊数

ここ10年間の貸出冊数の推移をみると、利用者数の推移と同様の傾向を示しており、18年度以降は増加に転じ、19年度では290万冊が貸し出されている。（図書館関連資料P6参照）

図1 図書館別の貸出利用者数の推移（個人貸出）

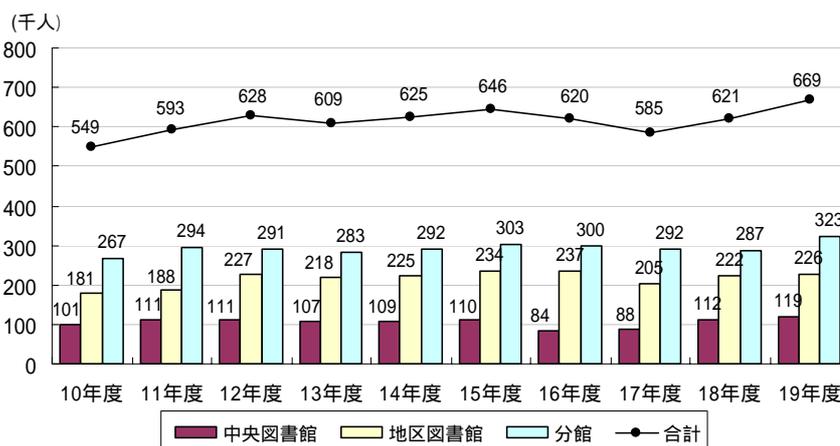
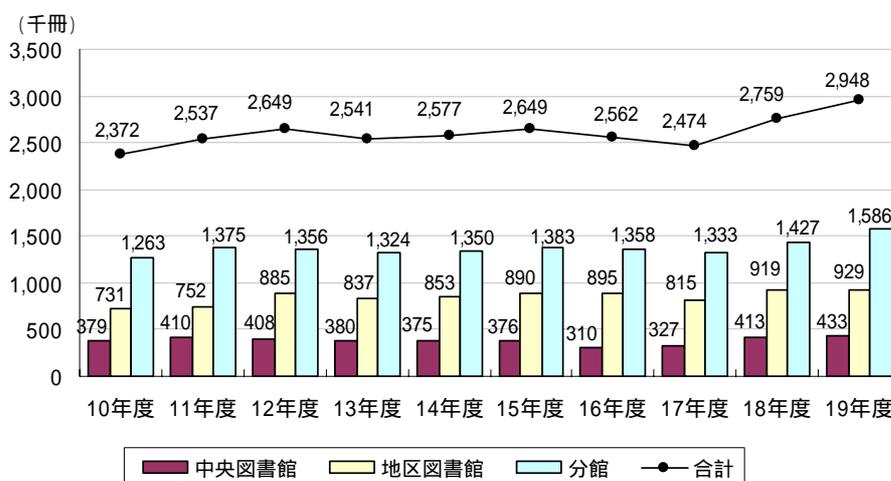


図2 図書館別の貸出冊数の推移（個人貸出）



(3) 他都市の図書館配置状況

政令市（ 17 市 ）の図書館配置状況は、他都市（政令市）の状況（図書館関連資料 P 4 ）のとおりである。

その体制をみると、「中央図書館 + 地区図書館」体制は、札幌市など 10 市、「中央図書館 + 地区図書館 + 分館」体制は、千葉市など 7 市である。

また、各都市（北九州市を除く）では、行政区に地区図書館（中央図書館を含む）が配置されているが、その規模は、約 2,000 ~ 500 m²とそれぞれの都市の実情に応じて異なっている。

2 . 現状の図書館網の評価と課題

(1) 市民意識

今回、「これからの図書館のあり方」を検討するにあたり、一般市民、図書館利用者、小・中・高校生を対象に、読書や図書館利用の実態、図書館配置に対する充足感等についてアンケートを実施し、市民のニーズや意向を探ることとした。その結果は、次のとおりである。

【参考：アンケートの概要】

区分	対象	実施数	回答数	実施期間
一般市民	20 歳以上 無作為郵送	3,000 人	932 人 (31.1%)	H20.6.23 ~7.5
図書館利用者	17 館利用者 各館 25 人	425 人	411 人 (96.7%)	H20.7.2 ~7.9
小・中・高校生 (小中各18校高7校)	小6、中3、高 3 各 1 学級	1,415 人	1,415 人 (100%)	H20.7.2 ~7.9

ア . 読書実態

区分	読書数	主な読書方法
一般市民 図書館関連 資料ページ 〔以下同〕 (P 8 ~ 9)	<ul style="list-style-type: none"> ・「月 1 ~ 2 冊」が最も多く、「読まない」も 2 割。 ・年代別では、20 代で「読まない」が 26%。その後、40 代まで読書数が高まる傾向。50 代以降は「よく読む人、読まない人」に分かれる傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書店等で購入」が 6 割。 ・「図書館活用」は 2 割。 ・年代別では、図書館活用は 20 代が最も少なく、40 代の約半分。 ・「インターネット利用」は 30 代が多い。

図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・「月10冊以上」が最も多く、全体の6割以上が5冊以上を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館活用」が8割。「書店等で購入」が1割。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・「月1～2冊」以上読む小学生は8割、中学生は6割、高校生は3割と読書活動が低下。 ・「読まない」は、中学生で25%、高校生で35%。高校生では7割が「少し読む」か「読まない」と回答。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書店等で購入」が小学生4割、中高校生7割。 ・「図書館活用」は、学校図書館を含めると、小学生5割、中学生1割、高校生2割。 ・「インターネット利用」は中高生になるにつれ増加。

イ．図書館活用の実態

区分	登録状況	この1年の利用状況
一般市民 (P10)	<ul style="list-style-type: none"> ・4割が登録。半数以上が未登録 	<ul style="list-style-type: none"> ・4割超が図書館を利用した。(半数以上が利用していない) ・男女別では、女性(49.0%)が男性(33.9%)を上回っている。 ・年代別では、30、40代が5割を超えているが、年代が上がるにつれて利用率が低下。
図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ10割が登録。 	<ul style="list-style-type: none"> 10割が利用している。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生は5割が登録。(小中学生は設問なし) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のほとんどが図書館を利用。その約7割が「学校図書館」。 ・中学生では7割以上が図書館を利用。その4割が「学校図書館」。 ・高校生では、7割が図書館を利用。

ウ．利用図書館の状況

区分	利用頻度 1 位の図書館の割合	利用の特徴	
		図書館別	地域別
一般市民 (P11～12)	1位 中央図書館 2位 若松図書館 3位 八幡図書館 (6位 水巻町図書館) 概ね近隣の図書館を利用する傾向にある。	〔資料 12-2(1)参照〕 <u>中央図書館</u> 小倉北区のほか、モノレール沿線の徳力地区、八幡東区の東部からも利用 <u>八幡図書館</u> 八幡東区の西部や黒崎地区のほか、上津役地区からも利用。 <u>戸畑図書館</u> 戸畑区のほか、小倉北区西部からも利用。	〔資料 12-2(2)参照〕 <u>小倉南区</u> 近隣の分館に加え、中央図書館を利用。徳力地区では中央図書館の利用が 1 位。 <u>八幡西区</u> 近隣の分館に加え、市外の図書館の利用がある。折尾地区では水巻町図書館が 1 位。 <u>二島・折尾地区</u> 学術研究都市の図書館が利用されている。
図書館利用者 (P13)	1位 門司図書館 2位 中央図書館 3位 企救分館 概ね近隣の図書館を利用する傾向にある。	〔資料 12-3(1)参照〕 <u>八幡図書館</u> 八幡西区の利用者が半数を超えており、上津役地区からも利用。	〔資料 12-3(2)参照〕 <u>若松・八幡西区</u> 中央図書館の利用がほとんどない。 <u>八幡東・八幡西・戸畑区</u> 市外・区外の広範囲にわたって利用。

エ．利用図書館の選択理由

区分	選択した図書館を利用する理由
一般市民 (P14)	・「自宅に近い」が 6 割、次いで「通勤等に便利」。 ・「自宅に近い」のほか、年代別では、20 代が「通勤等に便利」や「雰囲気がいい」、40 代は「見たい本が多い」、50 代は「通勤等に便利」が比較的高い。
図書館利用者	一般市民と同様の傾向。
高校生	・「自宅に近い」が 6 割、次いで「雰囲気がいい」。

オ．図書館に行く理由

区分	図書館を利用する目的
一般市民 (P15)	<ul style="list-style-type: none"> ・「借用」が6割、次いで「閲覧」「調べもの」が多い。 ・年代別では、20代は「調べもの」が最も多いものの、他の年代では「借用」が最も多い。但し、年代が上がるにつれ、「閲覧」や「調べもの」の割合が高くなる傾向。
図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・「借用」が8割で、他の目的は1割未満。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生では「学習室利用」が6割、次いで「借用」「閲覧」。 ・小中学生では「閲覧」が5割、「借用」が2～3割。

カ．本を読まない、図書館に行かない理由

区分	本を読まない、図書館に行かない理由
一般市民 (P16～17)	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間がない、暇がない(37.8%)」「購入するのが必要がない(36.9%)」「借りるのが面倒(31.1%)」「図書館が近くにない(24.3%)」の順。 ・年代別では、30～50代は「時間がない、暇がない」が、20、60、70代は「購入するのが必要ない」が1位。 ・地区別では、小倉南区と八幡西区の「図書館が近くにない」の割合が他の行政区より高い。
図書館利用者	日頃から図書館を利用しているため、該当なし。
小中高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生では「時間がない」が6割を超える。次いで「借りるのが面倒」。 ・小中学生では「買うのが必要ない」いずれも1位。小学生では、「図書館に行っても楽しくない」「部活が忙しい」の順。中学生は「借りるのが面倒」「読みたい本がない」「部活が忙しい」の順。

キ．配置に対する満足度

区分	現在の図書館配置状況に対する満足度
一般市民 (P18)	<ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」を合わせて4割 ・「やや不満」「不満」を合わせて2割、「どちらでもない」は3割 ・区別では、八幡西区で「やや不満、不満(34.0%)」が「満足、やや満足(25.8%)」を上回っている。
図書館利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」を合わせて6割 ・「やや不満」「不満」を合わせて2割、「どちらでもない」は1割。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」を合わせて5割 ・「やや不満」「不満」を合わせて1割、「どちらでもない」は3割

(2) 図書館網 (図書館の配置) に対する評価

図書館利用者数については、ここ数年、各館の積極的な取り組みもあって、増加傾向にあるが、市民アンケートによると約半数以上が図書館を利用していないのが現状である。

利用しない理由として「購入するので必要ない」「借りるのが面倒」など図書館利用に対し消極的な意見の一方で、「時間がない、暇がない」「図書館が近くにない」などをあげる市民も多く、利便性の向上や借りやすい環境づくりに向けてハード、ソフトの面から整備を進めていくことが求められる。

そこで、現行の図書館配置をみると、市民の満足度では、一般市民の約4割、図書館利用者の6割から肯定的な意見をいただいている(「不満」は2割程度と少ない)など、身近なところで、図書に触れる機会を提供するとの観点からは、一定の評価をすることができる。

しかし、図書館を利用する理由として、自宅から近いなど交通の利便性を掲げるものが多く、とりわけ、小倉南区、八幡西区では、他区に比べて、図書館の配置に対し「やや不満、不満」の割合が高かったり、「図書館が近くにない」ことが利用しない理由となっていることなどを勘案すると、これら両区については、新たな図書館整備を含め図書館サービスを受けやすい環境づくりに向けて検討する必要がある。

事実、読書活動を深めたり、ものを調べたり、各種講座を受講するなど高次の図書館サービスを受ける観点では、八幡西区や小倉南区のように地区図書館から離れ、分館しかない地域や中央図書館まで遠い地域では十分なサービスを楽しむことができない面があることが推測される。

地 区	人 口	課 題
曾根地区	98,000 人	中央図書館へは、約 9 キロ
徳力地区	74,000 人	中央図書館へは、約 7 キロ
黒崎、上津役地区	132,000 人	最寄りの地区館へは、約 4 キロ 中央図書館へは、約 14 キロ
折尾地区 + 二島	119,000 人	最寄りの地区館へは、約 8 キロ 中央図書館へは、約 18 キロ
八幡南地区	51,000 人	最寄りの地区館へは、約 11 キロ 中央図書館へは、約 21 キロ

3 . 図書館配置のあり方に対する考え方

(1) 基本的な考え方

ここ数年、図書館利用者数が増加傾向にあり、市民アンケートでも配置状況に関し肯定的な意見も多いことなどから、現行の図書館配置については、十分その役割を果たしていると考ええる。

今後、さらに図書館へのアクセス向上やサービスの均衡を図り、利用者の拡大を進めていくためには、返却フリーやインターネット予約などのサービスの充実と合わせて、利用者数や人口、さらに交通利便性に配慮した図書館配置について検討することも必要である。

この検討にあたっては、前回答申（平成 14 年 11 月「生涯学習拠点としての図書館のあり方」）にもあるように中央図書館、地区図書館、分館を基本にしつつ、既存施設の有効活用を図るとともに、まちづくり計画（地域開発）にあわせた図書館整備など、本市の財政状況にも配慮しながら、効率的な手法を選択して総合的に進めていくべきである。

(2) 地区別の配置の考え方

ア . 既存の地区図書館及び分館の配置

(ア) 地区図書館

地区図書館については、旧市の図書館を引き継ぎ活用された経緯もあって、概ね建築後 30 ～ 50 年が経過するなど老朽化しているものの、サービスの向上やバリアフリー化のための施設改修などに取り組んでおり、ここ数年、利用者数が増加傾向にある。

今後は、当面、既存施設を有効に活用しながら、大規模な耐震改修工事やまちづくり計画（地域開発）にあわせて配置を検討すべきである。

(イ) 分館

分館については、現在、11 館が設置され、その利用者数も全体の半数近くを占めている。市民アンケートにおいても、自宅から近い図書館として分館の利用が一番にあげられるなど地域に密着した図書館として市民に定着している。

今後は、当面、現配置を基本にしつつ、図書館サービスの充実に向けた取り組み状況をはじめ、人口集積、利用実態等の推移をみながら、必要な配置等について検討すべきである。

イ．新たな図書館整備等

(ア) 八幡西区

八幡西区は、人口約 26 万人（26.3%）、図書館利用登録者約 4 万 5 千人と、両指標において市内最大の地域である。

区内の市立図書館としては、大池・折尾・八幡南分館があるが、3 つの分館の蔵書数（12 万 6 千冊、7.8%）は人口規模と比較して少なく、また、区境に隣接する北九州学術研究都市学術情報センターの図書館（一般利用可能）は日曜日が休館であるなど、他区に比べ、十分な図書館サービスを提供できていない。

今回の市民アンケートによると、近隣市町村の図書館を利用するケースも多く、とりわけ、折尾地区では水巻町図書館が 1 位にあげられている。また、門司、小倉北・南区など北九州の東部地区に比べ、地区図書館や中央図書館が比較的遠い位置にあり、アクセス面で劣っているところもある。市民アンケート項目の図書館の配置状況に対する満足度において、「不満、やや不満」が「満足、やや満足」を上回っており、図書館に行かない理由の第 2 位に「図書館が近くにない」ことがあげられるような結果となっている。

このような状況を考えると、サービスの均衡や利便性の向上の観点から、八幡西区内における、図書館の整備・充実が求められる。

このため、今回、黒崎副都心地区の「文化・交流拠点地区」において国の補助金を活用して施設整備が進められる計画であり、これを機に新たに図書館を整備することが、区民の利便性のみならず財政上も適当と考える。

なお、この整備にあたっては、当該区民が中央図書館を利用するには不便も多いことなどから、その機能にも配慮しつつ、利用者数や周辺の人口規模に見合った副都心にふさわしい図書館整備が望まれる。

(イ) 小倉南区

小倉南区は、人口や利用登録者は、八幡西区に次いで多く、広さは市内最大である。八幡西区と同様、地区内に地区図書館はなく、人口

規模に比較して蔵書数が少ないなど、十分な図書館サービスを提供できていない。

さらに、今回の市民アンケートでは、利用する図書館として、2つの分館のほか、中央図書館があげられ、とりわけ徳力地区（城野、曾根を除く地域）については中央図書館が第1位となっている。また、図書館の配置状況に対する「不満、やや不満」の割合は、第1位の八幡西区に次いで高く、図書館に行かない理由として、「図書館が近くにない」ことが第3位にあげられるなど、他区と異なる傾向が見受けられる。

このような状況を考えると、サービスの均衡や利便性の向上の観点から、今後は、小倉南区のまちづくり計画（地域開発）を見定めながら、新たな図書館の整備を検討するか、又は区役所にも近い北九州市立大学の現存図書館の資源を市民に開放する仕組みを強化するかなど、効率的かつ実効的な手法を選択して、小倉南区内における図書館の整備・充実について検討する必要がある。